

かれた京阪神三市連合保育会の總會に於ける倉橋先生の保育に關する処女講演「保育の新しい目標」の内容より受けた驚異と感激に起因するのであります。この当時の幼稚園に於ては大體に於てフレイベルの思想に基いた保姆中心主義の保育が行われて居たのであります。倉橋先生はこの講演に於て、保育は幼児の生活を基礎として幼児の自發活動を重んじ具体的に相互的に遊びの中に自然的に進めるべきであるとの新保育論を公表されたのであります。永い伝統の中に安んじて居た京阪神の多くの保姆達は恐らく驚異の目を見張り、この型破りの新しい新保育論に思わず引入れられたことであつたと思ふ。さてこそこのラップが生れ、合詞となつて新しい保育が芽生たのであります。口絵、大正初年頃の写真は実に其御講演直後会場であつた梶一高女で神戸の保姆達に囲まれた若き日の倉橋先生であります。

歳月は流れて五十年、其間先生が我国全体の幼稚園、保育所否全幼児の爲にお尽し下さいました数々の大きな御功績は燦々と照る太陽の如く今更私などの拙ない言葉で申し上げる何物もございません。

唯最後に、思う事をなすとげるまでには永い年月を要するものであります。先生が一生をかけて全国にお時き下さいました保育の理想の種は五十年の歳月を経て今や漸く全国到る処に其实を結びつつあるのではないかと思ふのであります。

今日の私共の保育はたとい先生の保育真諦には程遠いものがあるとしても其精神にははなれないだけの保育が生れ出て先生に喜んで頂ける域に進みつつあることを信じ先生への無限の感謝を捧げて倉橋先生を偲びまつる言葉と致します。

(陸学園女子短大助教授)

倉橋先生の思い出

山下俊郎

わたくしが倉橋惣三先生というお名前を知つたのは、東大心理学科の学生時代で、はるかなる大先輩としてお名前だけを知っていただけである。直接お眼にかかったのは、大学卒業後間もない頃、大日本聯合婦人会の家庭教育相談所にお手伝いしていた時に、婦人会に見えた先生に文部省の誰方からか紹介していただいた時である。しかし、直接にお眼にかかつてお話を伺うという機会は一向になく、わたくしはいつも

先生の書かれたものによって先生に接触していたといっている。

先生に、直接に、そしてしばしば、お眼にかかってお話しを伺い、こちらもいろいろとお話しするようになったのは、わたくしが愛育会に関係するようになってからであるから、昭和十一年頃からである。愛育会の創設の時から、いろいろと面倒を見て下さったのは先生であり、またのちにわたくしの勤務の場所となった愛育研究所を創設する上にもいろいろと骨折って下さったのも先生であった。とくに研究所が創設されて後は、わたくしの属する教養部の研究打合せ会には研究所の顧問としてよく御都合をつけて御出席下さった。いろいろとみんなで議論をしていることについて、実に明快にすじ道をたてて整理して下され、先生独得のユーモアを交えながらはげしい議論を見事にさばいて下さったものであった。そのさばき方には、わたくしは実に驚いてしまつて、こんな頭のいい人は珍らしいという感じを強く持ったことをおぼえている。わたくし達の愛育研究所における研究はこのような先生の支持があつたからこそ、実を結ぶことができたのだと思う。

先生にとくに親しく接する機会に恵まれたのは終戦後のことである。新しい学校教育法の制定に当つて先生が教育刷新会の委員として、また幼児教育に關しては当時の坂元彦太郎

課長の相談相手として大変な努力をなさつたことは誰でも知つてゐることだと思ふ。わたくしは、その後保育要領編纂のとき、先生のあとにくつついてヘファナン女史の主筆する委員会で仕事をさせて頂いたのであるが、この委員会の時きも先生は指導的な役割をつとめて下さった。ことにできあがつたものを全体としてまとめて、これに全部眼をおして形をつけて下さつたのは先生であつた。今日、保育要領に代つて新しい幼稚園教育要領が出るようになったが、わたくしは保育要領の精神は依然として今日の幼児教育にも貫いているべきものであり、また貫いてゐると思ふ。そして、保育要領に盛られてゐる精神はすでに三十年前に先生によって打ちたてられた幼児教育の精神なのである。先生は「新教育新教育とよくいうが、われわれが三十年も前から言つてゐることが、やつとこの頃になつて認められ、人がいうようになったのだよ」と、よく言われたものであつた。

昭和二十三年には、倉橋先生を会長として日本保育学会が生まれた。日本の保育が科学的研究の基礎の上にあるようにとの先生のお考えがわたくし達に徹して、わたくし達若い者は先生の御指導によつて今日まで学会のことをいろいろとやつてきた。今年第八回の大会を持つことになつた日本保育学会は、先生の晩年の熱情を注がれたことによつてここまで成長してきたものである。

先生はいつも温い、すべての人をつつむような広いヒューマニズムを持って居られた。どんな時にも接する者に暖かいおびきをかけて下さった。そして先生の暖かい愛情をふんだんに受けた者は、日本中の幼児であり、また幼児保育者であったと思う。いま、あの先生の温顔に接することができなくなったとは、わたくしはどうしても思えないのであるが、先生の暖かいヒューマニズムが全幼児保育者の心にしみとおっていることを思えば、先生は永遠に幼児保育の中に、また幼児保育者たちの心の中に生きていて下さるのである。そして先生を永遠に生かす道は、お互い幼児保育者が保育の道を常に精進と研究とを以て高めて行くことにあると思う。

倉橋先生を偲んで

山村 きよ

日本の子供達のために多くの幸福を与えて下さった倉橋先

生。

子供達と一緒に生活することの幸福を教えて下さった倉橋先生。

日本の国の隅々にまで真の幼児教育理論を滲透させて下さった倉橋先生はフレイベル先生の誕生日、四月二十一日に突然御他界になりました。

故倉橋先生も又日本のフレイベル先生として、いつまでもいつまでも日本の子供達のためにより幼児教育者を世の中に送って下さるように、きっと幼児教育の神様として私共幼児教育関係者はいつまでもお慕いすることだと思いません。

先生は私共卒業生のためには仕事の上にも又個人的にもほんとはよいお父様であったことをいろいろと想い出させて下さいます。私が最後にお目にかかりましたのは四月三日の夕方、丁度クラスの者五、六名で（東京在住の）卒業して満三十年を越えた記念の会合でもおちたいと相談の会合を終って、その時には是非倉橋先生御夫婦の御出席をお願いしたいものと夕方の時間をも忘れて参上したのですが、今から想えば何か虫が知らせたとも云うのか？……不思議な感情でお別れしてしまいました。それは、私共が夕方の時間を遠慮がちにお話するのを「まあまあ」と引きとめて下さったり、こと更なつかしんで下さって、始終笑いをうかべて私共の話をきいて下さったり、帰えりがけにはクラスの一昨年若